

THE **A** MUSEUM

Vol.5-3 第15号 2011.3.5

Saitama Prefectural Museum of History and Folklore



今から150年前、一人の女性を乗せた輿こしが京から江戸へ向かって静かに中山道を下って行きました。

付き従う者は、京からのお供1万5千人、江戸からの出迎え1万人、その他人足や馬、沿道の警護の人数を加えると数万人に及ぶ大行列で、中山道は人と馬であふれかえっていました。

輿の中には、16歳の親子内親王ちかこないしんのう一皇女和宮いんこうてんのうが乗っていました。和宮は、仁孝天皇の皇女で孝明天皇の異母妹みだいどころにあたり、第十四代將軍徳川家茂に降嫁して御台所(正室)となるため、道中の人となっていました。それまで京の姫君たちの將軍への輿入れの通行はありましたが、皇

女の輿入れは初めてのことでした。

これまで中山道に関して当館では、「昔の旅」、「宿場」、「開設400年記念 中山道」などの特別展を開催してきました。当館に限らず多くの博物館では、五街道のひとつとして幕府の交通政策・制度やお伊勢参りなど庶民の旅の視点から中山道を語り、また展示をしてきました。

本展では、降嫁150年を記念して皇女和宮の降嫁通行を軸に中山道を通行人々を通して、中山道が官道として朝廷と幕府、京と江戸をつなぐロイヤル・ロードとしての視点から、歴史的・文化的に重要な役割を担っていたことを改めて見直してみようとするものです。

降嫁150年記念 皇女和宮と中山道

プロローグ 東山道と中山道

中山道の起源は、古代の官道・東山道に遡ります。東山道のルートとすべて合致するわけではありませんが、この東山道をもとに江戸幕府によって中山道が整備されたといえます。

埼玉県域にあたる武蔵国には東山道武蔵路という支線があり、県西部からは遺構が検出され、「驛長」の文字の入った「墨書土器」などが出土しており、東山道との関連を推測させます。

時代はくんだり徳川家康は、東海道に続いて慶長7年(1602)に中山道の整備に着手しました。中山道は、東海道とともに京と江戸を結ぶ大動脈として、江戸幕府の交通政策のもと五街道に位置づけられ重要視されていきました。

主な展示資料：「驛長」墨書土器(川越市教育委員会)ほか

第1章 日光例幣使・朝鮮通信使・琉球使節

三代将軍徳川家光は、正保2年(1645)朝廷に奏請して宮号宣下を受け、それまでの「東照社」の社号を「東照宮」としました。

翌3年4月、東照宮に朝廷から勅使が派遣され、幣帛が奉納されました。翌年から奉幣使が参向することが慣例となりましたが、この勅使が、日光例幣使です。これ以降、慶応3年(1867)までの221年間、一回も中止されることなく奉幣のため東照宮への参向が行われました。

日光例幣使は、草津宿(滋賀県草津市)から中山道を経由し、倉賀野宿(高崎市)から日光例幣使道と呼ばれる街道を通過して、東照宮に幣帛を奉納しました。



御下向之図(群馬県立歴史博物館)

海外使節の朝鮮通信使は、江戸時代を通じて12回来朝しています。使節は、京を経て草津宿で中山道に道を取り、野洲(滋賀県野洲市)から朝鮮人街道と呼ばれる街道に入り、彦根を経て鳥居本宿(彦根市)で再び中山道に出て、垂井宿(岐阜県垂井町)から美濃路、東海道を通過して江戸へ向かいました。

琉球使節もまた、草津宿から垂井宿を経て、美濃路経由で東海道を江戸へ向かいました。琉球使節は、幕府へ派遣された琉球国中山王府の朝貢使節で、18回行われました。

両使節とも、沿道の文化に影響を与え、現在でも音楽や芸能などが伝わる地域もあります。

主な展示資料：官符・宣命(東照宮)、例幣使献詠短冊帖(朝日森天満宮)、朝鮮通信使行列絵馬(加須市 医王寺)ほか

第2章 京の姫君たち

江戸時代、将軍御台所は家光以降、代々京の宮家や公家の娘を迎えることが慣例となりました。

家光以降、14人の姫君たちが将軍御台所になるために江戸へ向かっていますが、そのうち和宮を含め半数の7人が中山道を通っています。和宮のほかは、いずれも宮家や五摂家の出身です。

展示される「楽宮下向絵巻」、有君の「御下向之図」は、いずれも長大な絵巻物で見どころの一つです。姫君たちは京から一歩も出たことがなく、生まれて初めて見る景色に感動して描かせた旅のアルバムといったところでしょうか。

主な展示資料：御下向之図(群馬県立歴史博物館)、楽宮下向絵巻(個人)ほか



和宮拜領御所人形(個人)

降嫁150年記念 皇女和宮と中山道

第3章 皇女和宮

十四代将軍家茂の御台所として、天皇の娘が初めて選ばれました。和宮親子内親王かずのみやちかこないしんおうです。和宮は文久元年（1861）10月京を後にしました。中山道に道を取り、武蔵国に入り本庄宿、熊谷宿、桶川宿に宿泊し、江戸城内清水邸に入りました。まさに中山道は、ロイヤル・ウエディング・ロードとなったのです。

ところで、初めての皇女の降嫁という慶事は、庶民の関心も高く瓦版などが出版されました。瓦版からは緊張した世情不安の様相は感じられず、むしろ好奇に満ちたお祭りのような雰囲気さえ漂っています。

主な展示資料：和宮御車図かずのみやみくるます（東京国立博物館）、手鏡てがみ（財徳川記念財団）、貝合かいあわせ（江戸東京博物館）ほか

第4章 浪士組と東征軍

幕末の世情不安の中、中山道を京へむかったのは浪士組です。浪士組は、上洛する家茂の先発隊として攘夷決行、京の治安回復を目的としていました。京に着いた浪士組は、朝廷から攘夷の命令を得て江戸に戻り、新徴組しんちゆうぐみとして江戸の警備を担うこととなりました。

やがて時代変革の流れが中山道を一気にくだり、慶応4年（1868）岩倉具定いわくらともきだ（岩倉具視の子）に率いられて東征軍の一隊・東山道軍が錦旗を掲げて進軍してきました。中山道などで奉じられた錦旗は、やがて江戸城無血開城に導き、新しい時代が開かれました。

主な展示資料：浪士上京之節連名上書之写ろうしじょうきょうのせつれんめいじょうしよのうつし（個人）、錦旗きんき（東京国立博物館）ほか

エピローグ

明治天皇の行幸・巡幸と官設鉄道計画

明治天皇は、東京に遷都した直後の明治元年（1868）10月、武蔵国一ノ宮氷川神社に行幸しました。

中山道沿道の人々は、今まで目の当たりにする事のなかった天皇の姿に接し、近代国家の幕開けを実感したのではないのでしょうか。

また地方の実情視察のための明治11年（1878）の北陸・東海巡幸では、中山道を浦和・熊谷へと通っています。巡幸は、庶民の関心も高く錦絵や

刷物が出されるようになったのが特徴的です。

さらに新政府は、東京と京都を結ぶための官設鉄道を中山道ルートで建設することを決定し、測量に着手したが、財政上の理由から着工は中止されました。その後、中山道から東海道へ幹線変更され、中山道ルートの鉄道は幻となり、ロイヤル・ロード中山道の役目は名実ともに終焉を迎えました。主な展示資料：氷川神社行幸絵巻（氷川神社）、御巡幸御行列略図（栃木県立博物館）、東京・高崎間鉄道略図（当館）ほか
（特別展示担当 杉山正司）

関連事業

I 記念講演会

日時：4月23日（土）午後1時30分から

講師：徳川恒孝氏とくがわつねなり（財徳川記念財団理事長）

演題：「幕末の日本と皇女和宮・中山道」

申込：①往復葉書、②当館H.P電子申請のいずれか。150名を超えた場合は抽選。

II 見学会「和宮ゆかりの遺跡を訪ねる」

日時：4月29日（金）・30日（土）午後1時～3時

場所：桶川宿本陣遺構（桶川市寿2-2-4）

JR桶川駅東口徒歩10分

※駐車場はありませんので、電車利用のこと
申込：当日受付 参加費：無料

III 展示解説 ※要観覧料

日時：3月26日（土）・4月3日（日）・9日（土）・17日（日）・5月7日（土）・8日（日）午後2時から



和宮所用の小袖（財徳川記念財団蔵）



当館の「ゆめ・体験ひろば」は、「博物館ならではの」多様な体験プログラムを、地域の文化資源を活用しながら入館者のみなさまに体験していただくエリアです。この一角にある「昭和の原っぱ」では、メンコやフラフープ、こま回しなど、昔なつかしい遊びを体験できます。親子あるいは祖母・祖父が孫を連れ、ともに楽しんだり競い合う姿は、遊びの伝承と同時に世代間交流の場でもあります。こうした通常メニューのほか、5月の連休や夏休みなど年数回にわたり、その時期にちなんだテーマでノスタルジックなイベントを開催します。平成22年度の夏は、8月20日から22日まで「博物館夏まつり」を実施しました。初日は紙芝居やヒーローファッションショー、翌日以降は模擬縁日として、21日に飴細工実演、22日は射的を行いました。射的は、地元さいたま市に本拠をおく「ばくだん屋」の御協力で実施し、好評を博しました。模擬縁日のようなイベントは、日ごろボランティアのみなさまや学芸員が備えている技能とは性格が異なる要素が多く含まれています。そのため、飴細工や射的などは、その分野に通じたスキルを持つ人材との連携が不可欠です。そして、その実現のためには、「開かれた博物館」として、地域のマンパワーを導入し、コラボレーションを図ることが重要です。

NPO協働提案推進事業は、NPOと県が対等なパートナーとして、互いに「協働したい」と考えるテーマを提案し、審査を経て実施に至る事業



NPOばくだん屋の活動（射的）

です。実施に当たっては、県とNPOとの役割分担を明確にした上で協定書を締結し、NPO側に事業費が補助されるシステムです。助成の対象となる団体は、「『不特定かつ多数のものの利益の増進に寄与することを目的とする民間団体』で、埼玉に事務所を有し、県内を中心に活動する特定非営利法人及び任意団体に限定される」と決められています。

今回のイベント開催に当たっては、「ばくだん屋」に「博物館活動支援事業」という名称で協働提案をいただきました。テーマは、「昭和の原っぱイベント『博物館夏まつり』の企画・開催」で、「昭和の風物を再現したイベントを開催し、昔ながらの伝統的な遊び（今回は射的）体験を通じて世代間や家族の交流を深め、楽しみながら学習する場を提供します」という内容です。

「ばくだん屋」の提案書は、当館で拝見の上、「協働可能」というコメントを付けて応募しました。その後、32団体がエントリーしたという書類審査（第一次審査）と公開プレゼンテーション（第二次審査）が行われ、最終的に「ばくだん屋」を含む8団体が「平成22年度の候補事業に決定」という通知をいただきました。

事業は、射的銃やコルク玉、射的台や景品の調達といった準備から、イベント当日の銃の指導や景品の配布までを「ばくだん屋」が担当し、博物館は広報や事業の進行、安全管理は双方で行うこととしました。当日は相変わらずの猛暑で、どれほどのお客さまにお越しいただけるか気がかりでした。午前中は73人で少し不安でしたが、午後は倍近くの人数となり、最終的に199人ものみなさまに御参加いただきました。みなさまから寄せられたアンケートを見ると、満足が89%、やや満足を含めると100%になりました。「ばくだん屋」のみなさまとの協働が、お客さまにも親しみを与えたのではないのでしょうか。事業は1日限りでしたが、今後も「ばくだん屋」をはじめ、地域との連携を深め、「魅力ある博物館づくり」に向けて努めてまいりたいと思います。（柳 正博）

開館40th
Anniversary

鉄道むすめ[®]プレミアムパスセットを発行

～ 鉄道制服コレクション～

歴史と民俗の博物館は、平成23年11月で、前身の県立博物館時代を含めると開館40周年を迎えます。それを記念して人気キャラクターである「鉄道むすめ」の中から、東武鉄道のキャラクターである「栗橋みなみ」と「姫宮なな」を起用した2種類の年間プレミアムパスを特別に発行することとしました。

「鉄道むすめ」とは、全国各地の存在する鉄道事業者の制服を着たキャラクターコンテンツで、各地の町おこしなどで活用されているものです。ちなみに「栗橋みなみ」は東武鉄道の駅務係という設定で、名前は東武日光線「南栗橋駅」に由来します。また、「姫宮なな」は東武鉄道のお客さまセンターオペレーターという設定で、名前は東武伊勢崎線「姫宮駅」と東武野田線「七里駅」に由来しています。

「鉄道むすめプレミアムパス」の作成にあたっては、当館来館者のほとんどが東武野田線を利用するという事情などから、東武鉄道とコンテンツ開発者であるトミーテックから格別のご協力をいただき実現しました。このプレミアムパスは開館40周年を記念した限定品で、当館の常設展、特別展、企画展を1年間すべて無料でご観覧いただくことができます。

当館のこれまでの来館者の年齢構成は、60歳以上のいわゆるシルバー世代と小学生の団体利用で大半が占められるという現状があります。そこでこれまで来館実績の少ない若年層に向けた魅力ある情報発信が課題となっていました。「鉄道むすめ」を起用したプレミアムパスは、アニメ好き、キャラクター好きの若者に向けたアピールの起爆剤としての役割も担っています。

また、鉄道会社や玩具メーカーといった異業種とのコラボレーション事業も、博物館にとっては新たな試みであり、今後の展開が期待されます。

発売日や販売方法等は以下のとおりです。詳しくは博物館までお問い合わせ下さい。

発売日	平成23年3月1日（火）から
発売個数	2枚1組 500セット
販売価格	1セット 3,000円（税込み）
販売方法	①博物館窓口での直接販売 ②郵送販売（申込用紙に記入の上、代金と送料分の切手を同封して館に送付）
	①②とも売り切れ次第終了 （企画担当 二階堂 実）

プレミアムパス

40th
Anniversary

埼玉県立
歴史と民俗の博物館
Saitama Prefectural Museum of History and Folklore

©2005TOMYTEC/イラスト：みぶなつき



鉄道むすめ 栗橋みなみ

プレミアムパス 栗橋みなみバージョン

プレミアムパス

40th
Anniversary

埼玉県立
歴史と民俗の博物館
Saitama Prefectural Museum of History and Folklore

©2005TOMYTEC/イラスト：みぶなつき



鉄道むすめ 姫宮なな

プレミアムパス 姫宮ななバージョン



栗橋 みなみ Minami Kurihashi

「制服も新たに、今日も頑張ります。」
■東武鉄道株式会社/駅務係（新制服）
・明るい声で障りを元気にさせてくれる。クセ毛を少し気にしている。
・新しい制服にも慣れてきました。
・休日を使つては、趣味で全国の駅になる鉄道に乗りに行っています。
※名前の由来は「南栗橋駅」から



姫宮 なな Nana Himemiya

「皆様こんにちは。東武鉄道お客さまセンターの姫宮ななです。」
■東武鉄道株式会社/お客さまセンターオペレーター
・趣味と実益を兼ね、沿線旅行・見学によく行く。
・仕事では、いつも笑顔で親切・丁寧・的確な案内に定評がある。
・駅子とカクレとジャズとアスのまも 宇都宮出身。
※名前の由来は「姫宮駅」「七里駅」「七光台駅」から
※本来は東武鉄道の公式キャラクター、「鉄道むすめ」にはゲスト参加でラインナップ

©2005TOMYTEC/イラスト：みぶなつき 東武鉄道許諾済み

館内サインの改善

主張し過ぎる情報への気づき

とある日。大宮駅での待ち合わせ。
先方から目印は聞いていたものの、さて迷ってしまう自分がありました。

華やかに自己主張をする看板達。一つひとつを眺めれば、工夫が凝らされ、たしかによくできている。

ただ、主人公が多いがために、煌びやかな群としてしか見えない。いわゆる情報が埋没していることに気付いたのです。

博物館はどうか

博物館も多くの人々が集う施設です。私達は、どこに何があるのか?などと考えなくても、普通のこととして配置を認識しています。

だが、それでよかったのか?自分に問うてみる。(果たして、初めて来てくださった方々は、ご不自由なく館内を歩いているのか?)と。

正門からエントランス、展示室、あるいはトイレや休憩所。真っ白な頭で歩いてみれば、改善すべきこと、したいことが見えてくる。

そのことを職員との会話の中で語ってみたところ、こんな答えが帰ってきました。

「私に改善案を考えさせてください」

職員提案による改善のスタート

ご存知のとおり、財政状況は極めて厳しく、緊急性を要さない事業、ましてやレイアウト変更などが予算化されることは、期待できません。

そこで、『予算を使わず、アイデア・工夫で博物館のエントランススペースを整備しよう』、『今できることをやってみよう』という考えに立ち、前述した職員が素案を作成してくれたのです。

せっかく職員が努力してくれた結果ですから、できることならば実現したい。そんな気持ちが強くありましたので、館長も同席した会議において、職員からのプレゼンテーションを実施。エントランスのサイン類を改善することを中心とした提案を具体化することに決しました。

サイン類改善の具体例

職員提案に基づき実施を図った主な点について、簡単にご紹介します。

まず、現状における問題点の抽出から。

- ① 案内(情報)量が多すぎる。
- ② トイレや休憩所の位置がわかりにくい。
- ③ 高齢者や障害者の方への配慮が足りない。
- ④ 看板等の形状がばらばらである。

次に、改善した具体例

- ① 来館者にとって真に必要な情報を精査し、それ以外は排除した。
- ② 看板にイラストを添えるなど、視覚的に判別しやすいよう工夫した。
- ③ 看板等の文字サイズを大きくし、配色も見やすいものに変更した。
- ④ 看板の形状を揃えるとともに、総合案内付近を整理整頓した。

今後へ向けて

サインの改善を実施するにあたり、気付いた点は、博物館側からの発想による案内類が多かったということでした。大切なことは、まずは来館者にとって、何が便利かつお知りになりたい情報なのかという問いかけを常に行うことに違いありません。

予算、財政状況が厳しき折にあっても、ちょっとした工夫で何かができるはずである。

このことを忘れず、これからも快適で来館者に優しい博物館づくりに努めてまいりたいと考えています。
(総務・施設担当 依田 透)



大規模改修工事(I、II、III期)が完了となります！

当館では、建物の老朽化に伴い、設備などに不具合が生じてきている箇所につきまして、平成19年度から3カ年（I～III期）の計画で工事を実施してきましたが、22年度をもちまして、完了となりますのでご報告いたします。主な工事内容につきましては、以下の通りとなっております。

● 平成19年度（I期）

1 耐震補強

エントランスロビー内のコインロッカー室の上部にスリッド（下記写真の真中の黒い線のようなもの）を入れ、地震の際の振動を弱めることにより、耐震性の向上を図りました。



2 衛生設備の改修

館内全てのトイレを全面的に改修し、内装を明るくしたり、ウォシュレットを設置するなど誰もが安全で快適に使用できるよう配慮しました。



● 平成21年度（II期）

空調設備の改修

空調設備につきましては、従来のガス吸収式から電気式に改修し、割安な夜間電力で水や温水をつくり、昼間に冷暖房として利用することにより、光熱水費の削減を図りました。



● 平成22年度（III期）

階段昇降機を設置

地下の講堂からエントランスロビー中二階にある休憩コーナーまで階段昇降機を設置し、車椅子の方でも、安全に館内を移動できるようバリアフリー化を推進します。

（下記写真はイメージ）



なお、今年度（平成22年度）につきましては、平成22年11月15日から平成23年3月14日にかけて、大規模改修工事により、当館は長期休館中となっております。ご迷惑をおかけして、大変申し訳ございませんが、引き続き、皆様のご理解及びご協力をお願いします。

（施設担当 遠藤浩文）

THE A MUSEUM



歴史と民俗の博物館イベント情報（3月～6月）



埼玉県の
マスコット
コバトン

◆ 3月

- 1日（火）プレミアムバス発売
- 15日（火）歴史と民俗の博物館再オープン
博物館裏方探検隊
- 19日（土）時代衣装の着装・ミュージアムトーク
博物館裏方探検隊
- 20日（日）歴史民俗講座
「埼玉のまつりは今～変遷と展望～」
藍の型染め壁掛け作り
- 21日（月・祝）新メニュー「歴史百景」制作体験会
- 26日（土）特別展「降嫁150年記念 皇女和宮と
中山道」オープン（5月8日まで）
ベーゴマ作り・ミュージアムトーク
博物館裏方探検隊
- 27日（日）ミニ銅鏡作り

◆ 4月

- 2日（土）博物館裏方探検隊
- 9日（土）博物館裏方探検隊
- 15日（金）十二単の着装
- 16日（土）博物館裏方探検隊
- 21日（木）木目込み人形作り
- 23日（土）博物館裏方探検隊
特別展記念講演会
「幕末の日本と皇女和宮・中山道」
- 29日（金）・30日（土）
特別展見学会
「和宮ゆかりの遺跡を訪ねる」
- 30日（土）博物館裏方探検隊

◆ 5月

- 1日（日）水干・直衣の着装
- 3日（火）鉛細工実演・博物館裏方探検隊
- 4日（水）射的・なりきり似顔絵
- 5日（木）鎧の着装・1日館長・博物館裏方探検隊
- 7日（土）博物館裏方探検隊
- 8日（日）特別展「降嫁150年記念 皇女和宮と
中山道」最終日
1日館長・博物館裏方探検隊
- 14日（土）博物館裏方探検隊・ミュージアムトーク
- 15日（日）ミュージアムトーク
- 21日（土）博物館裏方探検隊
- 22日（日）民俗工芸実演「鴻巣の赤物」
- 25日（水）・27日（金）
張り子人形作り（連続受講可能な方）
- 28日（土）博物館裏方探検隊

◆ 6月

- 4日（土）博物館裏方探検隊
- 8日（水）オリジナル藍の型染めハンカチづくり
- 11日（土）博物館裏方探検隊・ミュージアムトーク
- 13日（月）～20日（月）
殺虫消毒のため臨時休館
- 21日（火）～30日（木）
学芸員実習
- 25日（土）博物館裏方探検隊
- 26日（日）第1回歴史民俗講座

■平成23年度の特別展・企画展

特別展	「降嫁150年記念 皇女和宮と中山道」	3月26日（土）～11月14日（日）
企画展	「あそび漫遊」	7月16日（土）～8月31日（水）
40周年記念特別展	「～魂を刻む～ 埼玉の円空仏（仮称）」	10月8日（土）～11月27日（日）
特別展	「大名と藩」	平成24年3月20日（火）～5月6日（日）



埼玉県立 歴史と民俗の博物館（編集発行）

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4丁目219番地
TEL. 048-641-0890（管理）
048-645-8171（学芸）
FAX. 048-640-1964
<http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp/>



埼玉県立歴史と民俗の博物館だより
Vol.5-3（通巻）第15号
2011年3月5日発行